

第 1 回検討委員会の意見と対応

2025年 4 月25日

第 2 回 名古屋港長期構想検討委員会

1. 第1回検討委員会の意見と対応

第1回検討委員会の意見と対応

- 第1回検討委員会でいただいた意見を種類ごとに分類し、その対応を一覧にまとめた
 - いただいたすべての意見について、その趣旨を長期構想へ反映していく

◆論理展開・着眼点

	意見	対応
1	2050年のどうなるかわからない状況に対して、バックカスティングで検討するので、名古屋港は上手くいっているのでは今ままでいいのではないかと、ではなく、少し挑戦的な内容になって欲しいと思う。	● 日本の発展を視野に入れ、「将来像」や「施策の方向性」では、積極的な姿勢で検討を行った
2	船が大きくなっていくことを考えると、今の名古屋港は手狭で、沖合への発展なども考えるといいと思う。河川や漁業の関係等で難しいこともあるかもしれないが、難しいからやらないということではなく、そのようなことも見据えて関係者といろいろ協議していくのが大事だと思う。	
3	リサイクルの視点も必要ではないか。	● 循環経済への移行に関する資料を「環境変化」に追加した ● 循環経済につながる施策を「施策の方向性」に記載した
4	国の政策の方向性も踏まえて検討してほしい。	● 国の政策を「施策の方向性」に反映した
5	海を豊かにする、という視点も考えていくと良い。	● 海が豊かであることを「将来像」に記載した

第1回検討委員会の意見と対応

◆名古屋港の位置付け

	意見	対応
6	京浜・阪神のリダンダンシーの観点から、有事の際、東西の中間にある立地条件を生かし、京浜や阪神が被災した時に補完的な役割が担えるような港湾にしていける必要がある。	• 名古屋港の取組を日本の発展につなげていくことを意識し、このような高い視点であることを示す表現を「基本理念」に追加した
7	名古屋港はこの地域の発展を支え、加えて日本の発展に貢献する港であってほしい。国土の抱える課題がこれから転換していく局面で、名古屋港が重要な役割を担っていく、つまり東京一極集中の是正を推進すべき名古屋港であるという捉え方を将来の姿としてバックキャストすることが望ましいのではないかな。	
8	中部の地域の維持だけではなく、日本のために貢献する地域となるために何をすべきか、という視点が必要かと思う。	
9	地域の企業にとって名古屋港の発展は不可欠で、20年30年、もっと先も含めて名古屋港自体が事業継続できていることが最低限のラインかと思う。昨今、社会課題であるカーボンニュートラルや、労働力不足への対応は避けられないし、周辺、日本全国の課題に対しても貢献できるというのが名古屋港に求められる、あるいは名古屋港ができることだと思う。	
10	経済圏をアジア一体と捉え、アジアの成長を名古屋港に取り込んでいくことが必要である。	
11	20年、30年後を見た場合、今後、電動垂直離着陸機の実現や、リニア中央新幹線の開通などに伴って、名古屋港の範囲だけでなく、伊勢湾、三河湾全部ひっくるめた広義の名古屋港という視点も必要だと思う。	

◆選ばれ続ける港

	意見	対応
12	一番大事なのは、名古屋港が世界から選ばれる港であることであり、そのためには、効率的で使いやすいだけでなく、高度な機能を備える、あらゆる意味で強い港を目指すべき。	- 名古屋港をPRする情報発信のひとつとして「基本理念」に端的なフレーズを追加した - 名古屋港が選ばれ続けることを意識して「将来像」を見直した - 名古屋港の重要性について情報発信していく旨を「実現に向けて」に記載した
13	このエリアは日本の物流にとって一番重要なところであり、「物流首都」という宣言を出すべきだと思う。	
14	名古屋港が発展するためには、船社に寄港してもらう港、エンドユーザー（受け荷主）にとっても便利な名古屋港であるべき。そのためには、インセンティブが必要である。	
15	企業の国際競争力を高めるため、様々な船社が寄港し、色々な選択肢があることが重要である。	

第 1 回検討委員会の意見と対応

◆カーボンニュートラル

	意見	対応
16	カーボンニュートラルの実現に向けて、2030年、2040年のマイルストーンを置いて、時間軸のステップをしっかりと描くことが重要ではないか。	・ エネルギー拠点の形成に向けた展開について、実現までのステップを「空間利用の方向性」に記載した
17	利用企業のサプライチェーンを考えるなかで重要な要素を担うのが、カーボンニュートラルポート（CNP）を中心とした脱炭素である。名古屋港の脱炭素の取組を進め、国のCNP認証制度の活用などで世界にアピールすることは、中部圏全域の産業のPRに繋がることから非常に大事である。	・ 脱炭素への取組を「施策の方向性」に記載した

◆先進的な取組

	意見	対応
18	港湾法等の制約で難しいかもしれないが、港に自由な機能が作れるということが出来れば、お客さんのニーズに対応でき、新しい技術や産業が積極的に集まってくるのではないか。	・ DXなどにより先進的な取組を積極的に進めていく旨を「施策の方向性」、「実現に向けて」に反映した
19	名古屋港では遠隔化や電子化がかなり進んでおり、更なる効率化に向けた取組を進め生産性の向上を図ってほしい。人口減少や2024年問題に対応するため、自動運転の導入やRORO船、フェリーの拡充の検討も必要である。	
20	新しい取組も積極的に取り入れる姿勢は素晴らしい。名古屋港では、新しい技術を実験し成果が出せる場所であるイメージづくりも大事である。	

◆成長産業

	意見	対応
21	成長性の観点では、ドローンの主要メーカーやロボットなど、将来的に自動車産業を補完するような成長産業も立地している。	・ 成長産業や次世代モビリティの振興を図る旨を「施策の方向性」に反映した
22	自動車や輸送機械の一本柱ではなく、次の柱として、空飛ぶクルマやドローンなど、次世代モビリティを名古屋港と結び付けると他にはない独自性を押し出せる。	

第 1 回検討委員会の意見と対応

◆強靱化

	意見	対応
23	安全な港、災害に対して影響を小さくできる港とアピールすることは、港湾立地企業の活動にもつながる。協働防護にむけて、港湾と民間企業が一緒になって港づくりする考え方も大事ではないか。	• 協働防護の考え方に基づく対策を進める旨を「施策の方向性」に反映した • BCPなど災害リスクに備える旨を「施策の方向性」に反映した
24	事業計画を考えるうえで、BCPの強靱性を高めていく必要がある。何があっても使い続けられる、早期に復旧できることはもちろん大事だが、名古屋港で働く人の安全安心が常に確保されていることは避けられない。	
25	臨海部の災害の予防対策の再点検や災害廃棄物の処理計画など、BCPの重要性の再認識も大事ではないか。	

◆親しまれる港

	意見	対応
26	産業港のイメージが強いので、港でロマンを感じられるような港づくりができると観光客を寄せられる。	• まちづくりとのつながりも意識しながら、親しまれる港づくりを進めていく旨を「施策の方向性」に反映した
27	地元に愛される名古屋港を前面に出すことも必要だと思う。	
28	クルーズ対応の強化や港湾緑地の整備なども検討して頂きたい。	
29	港に誇りをもってもらうために、賑わいやウォーターフロントの機能を持つておくことは大事である	
30	港には色が必要である。港を広域に捉え、一体的なまちづくりとして発展的に考えて欲しい。	

第 1 回検討委員会の意見と対応

◆空間利用

	意見	対応
31	デジタルツインなどの情報通信技術の活用により効率化を図ることで、港をいかに高度に使うかが重要である。	- DXを積極的に活用していく旨を「施策の方向性」、「実現に向けて」に反映した - コンテナターミナルの近代化や再構築、次世代エネルギー拠点としてのポートアイランドなど、現状や課題を踏まえて施策を展開していく旨を「空間利用の方向性」に反映した
32	名古屋港には5つのターミナルがあるが、既に相当古くなっているものもあるため、今の機能を維持しながら、ターミナルの再構築を行っていかねばならない。現状では、他のターミナルと融通しながら整備することが考えられるが、今後貨物が増えると難しくなる。	
33	名古屋港のターミナルは、自動化やNUTS、集中管理ゲートなど、優れた近代的なターミナルである一方で、古い荷役体制や不合理なターミナルも混在している。長期構想という長い目を見たとき、ある程度、まとまった近代的なターミナル群を揃える必要もある。	
34	脱炭素化を考える中で、ポートアイランドが中心的な課題になるが、それ以外のエリアも含めてどうするかを考えなければならない。パイプラインを敷設する用地の確保についても、あらかじめ残余地を考えておかねばならない。	
35	海外からの大規模な次世代エネルギーの受入拠点について、ポートアイランドの活用だけでなく、踊り場を設け、どの様に全体を変えていくか、官民が連携して絵を描かなければならないと思う。	

◆ポートアイランド

	意見	対応
36	ポートアイランドは利用価値が高く、現時点では機能を限定せずに検討を進める姿勢が重要である。	様々な可能性を考慮しつつ、実現に向けた課題等も踏まえて「空間利用の方向性」を記載した
37	カーボンニュートラルポートを目指す上でも、ポートアイランドを次世代エネルギーのハブに活用できれば、意義のある土地の活用になると思う。	
38	ポートアイランドに物流機能を持たせたらどうなるのか、費用や期間などを検討したい。	

第1回検討委員会の意見と対応

◆情報発信

	意見	対応
39	企業のサステナビリティに関する情報開示が求められる中、企業と一緒に港の安全性を示すことで、港湾の立地企業は、投資家や世の中に港の安全性を発信することができる。	- 名古屋港をPRする情報発信のひとつとして「基本理念」に端的なフレーズを追加した - 名古屋港の重要性について情報発信していく旨を「実現に向けて」に記載した
40	日本を支える物流拠点としての重要性を感じてもらえるような情報発信の仕方が大事であり、長期構想を発信の面でも活用していけると良い。	
41	名古屋港だからできること、何かショーケースのようなものをつくることも大切な要素ではないか。	

◆実現性

	意見	対応
42	長期構想の目標である20～30年後はリニアが名古屋まで開通していることが想定される。既存の枠組みの発展だけでなく、リニアを契機とした中部・東海を新たにどうデザインしていくかが問われている。	まちづくりと連携していく旨を「施策の方向性」に反映した
43	名古屋港は、伊勢湾の港湾や空港と連携して、地域の国際競争力や産業競争力の強化を支えていく視点が重要ではないか。	施策推進のため連携が重要となる旨を「実現に向けて」に反映した
44	施策を推進するための下支えとして、迅速に意思決定ができるような体制、組織づくりの視点も必要である。	施策推進のため迅速な対応が必要である旨を「実現に向けて」に記載した
45	目指すゴールの社会情勢がどうなっているのか、また、現状の課題の整理があれば、実現可能性がより説得的になる。	バックカスティングによる将来像と現状の課題を踏まえて「空間利用の方向性」に記載した
46	貨物の動向は横ばい、もしくは伸び悩みに見え、この先内発的に発展していくポテンシャルはそうは高くないと見て、名古屋港の経営を考えるべきではないか。また、長期構想で取り扱うかは別として、名古屋港の経営の枠組みを考え直していく時期ではないか。	名古屋港の持続的な発展に向け、港湾経営の視点を持つ旨を「実現に向けて」に記載した

2. 環境変化（追加資料）

循環経済（サーキュラーエコノミー）の推進

- 資源循環を巡る世界的な資源制約や調達リスクの増加、GXの推進、生物多様性の確保、最終処分場の逼迫などに対応するため、持続可能な形で資源を効率的・循環的に有効利用する循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行が推進されている

【我が国における循環経済を巡る経済・社会環境の変化】

循環資源の海外輸出・経済安全保障を巡る動き

- ・世界のマテリアル需要増大 → 将来は枯渇の懸念
- ・再生プラスチックの奪い合いや資源国による輸出制限が発生
- ・資源自律経済への対応が必要

GX（グリーントランスフォーメーション）の推進

- ・温室効果ガスの排出削減目標に貢献できるような資源循環を目指すことが必要

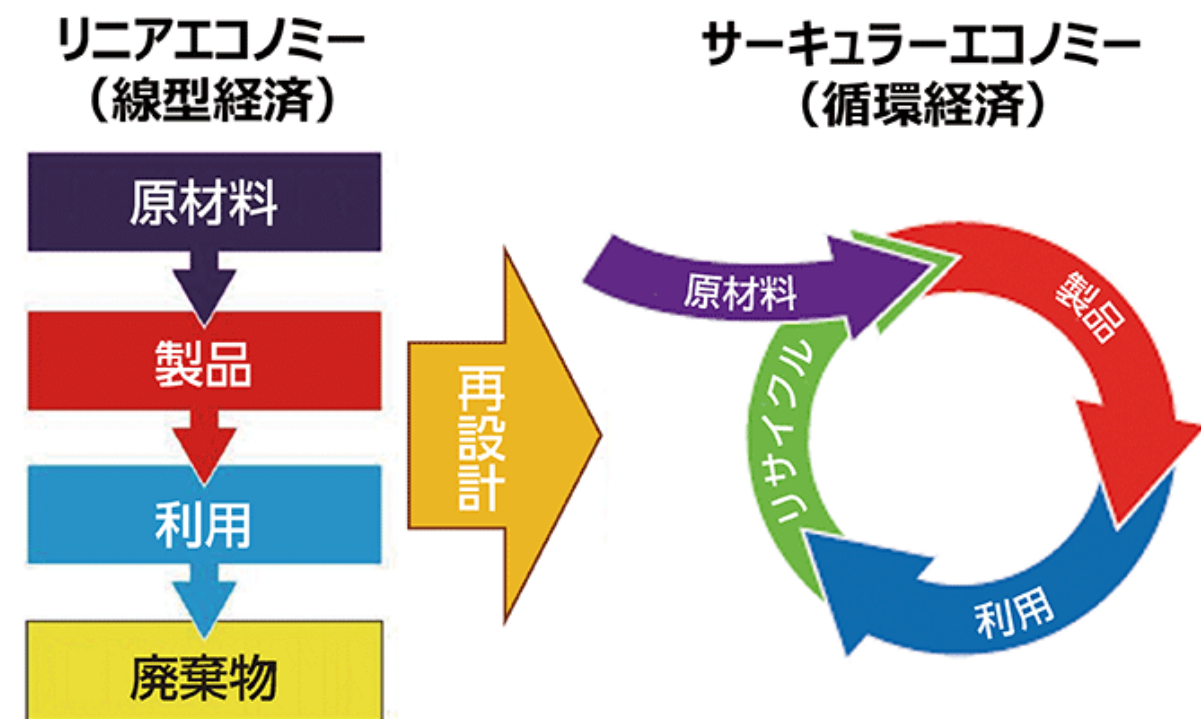
生物多様性の確保

- ・再生材の利用等による資源の効率的使用、製品等の長期利用・再使用や循環利用を進めることにより新たな天然資源の消費を抑制を図るなど、生物多様性や自然環境の保全への配慮を促進することが必要

最終処分場の逼迫への対応

- ・最終処分量の更なる減少を進める観点からもサーキュラーエコノミーの推進が必要

【サーキュラーエコノミーの概要】



出典：2020/21環境白書（環境省）